

施工仕様書

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	放置時間hr(23℃)	所要量
養生	剥離する塗膜の仕様(塗装系、膜厚など)を調査し、旧塗膜に付着している水分、汚れを除去する。剥離対象以外の箇所(開口部、建具廻り、ゴム、プラスチック製部品等)には、ポリエチレンフィルム、粘着テープ等を用いて被覆養生する。剥離箇所周辺は剥離剤が飛散するのを防止するため、シート養生を行う。				
塗付	ムキベスト I	主材:16kg 無希釈	ウールローラー、はけ	下表に記載	
除去 ^{※1}	—	—	スクレーパー 高圧水洗機 ^{※2} 等	—	—
必要であれば塗布～除去の工程を繰り返す。					
水洗い	—	—	高圧水洗機 デッキブラシ等	—	—

(注)解体工事等の塗膜剥離後に再塗装を行わない場合は、水洗いは必要ありません。放置時間が長い場合などは、塗り付け面にポリエチレンフィルムなどを貼り乾燥を防いでください。
^{※1}、アスベストが含まれる塗膜については、適切な飛散防止策を実施する必要があります。
^{※2}、吸引装置付高圧洗浄機の使用を推奨します。

建築用既存塗膜の種類別の塗付量と放置時間(23℃)

既存塗膜の種類	塗付量(kg/m ²)	放置時間目安(hr)	既存塗膜の種類	塗付量(kg/m ²)	放置時間目安(hr)
セメント系下地調整塗材(C-1相当)	0.5～	24以上	複層塗材E(アクリルタイル)	0.7～	12～24
外装薄塗材E(アクリルリシン)	0.5～	6～12	複層塗材R E(水系エポキシタイル)	1.2～	24以上
防水形外装薄塗材E(単層弾性)	0.7～	12～24	外装厚塗材E(アクリルスタック)	1.2～	24以上
防水形複層塗材E(弾性タイル)	0.9～	12～24			

(注)上記の各数値は、既存塗膜単体の場合のもので、改修塗膜の場合は塗付量および放置時間が増える可能性があります。また、塗膜の種類、膜厚、劣化の程度、気象条件等により塗付量は異なります。**必ず予めテスト施工を行ない、軟化の程度、塗付量・放置時間を確認、決定してください。**

剥離後の処理方法

アスベストが含まれた下地調整塗材や塗膜は石綿含有産業廃棄物として処理してください。その他の剥離物は法令を遵守して適切に処理してください。

荷姿

ムキベスト I NET 16kg/缶入

適用塗膜

下地調整材	建築用仕上材
下地調整材(C-1)相当品 主材(セメント・骨材・無機質粉体など)と混和液にて構成された0.5～1.0mm程度の膜厚の下地調整材	薄塗材(リシン等)、 複層塗材(アクリルタイル等) 厚塗材(アクリルスタック等) 防水形塗材(弾性タイル、単層弾性等)等

注意事項(剥離剤)

<p>【施工上の注意事項】</p> <p>◀環境▶ ○ 施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられる場合、外部の施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。 ○ 施工時は換気を十分に行ってください。 ▶施工▶ ○ ゴム・プラスチック類を軟化・膨潤させるため、剥離対象以外の箇所は養生してください。 ○ 施工面周辺(車や付帯設備を含む)や床などに汚染や損傷を与えないように、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。 ○ 施工途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、剥離剤に水分が当たらないようにしてください。 ○ 必ず使用前に既存塗膜の種類、膜厚、劣化状況などの事前調査を行い、剥離剤との適性を確認し、塗付量、塗回数、塗付後の放置時間などを確認、決定してください。 ○ 材料は希釈せず使用してください。 ○ テスト施工で決定した塗付量及び放置時間を守って施工してください。 ○ 材料を取扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。 ▶保管▶ ○ 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。 ○ 開缶時は確実に密栓し保管してください。 ○ 容器を転倒させる、落下させる、衝撃を与えるなど粗暴な取扱いはしないでください。 ○ 材料を保管する場合は、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。 【安全衛生上の注意事項】 ● 製品の取扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS(安全データシート:旧MSDS)を参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な保護具(化学防護服、保護手袋、保護眼鏡)、防毒・防塵マスクなどを着用してください。 ● 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。 ● 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。 ● 皮膚についた場合は、多量の水と石鹸で洗ってください。また、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断を受けてください。 ● 粉じん、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。 ● 取扱後は手洗い、うがいを十分に行なってください。 ● 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。 ● 合成樹脂などの電気絶縁性の床で材料の保管や取扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の服を着用してください。 ● 開封後、やむを得ず保管する場合は密栓して冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。 ● 保管場所、取扱い場所とその周辺には、塗装中、放置中、剥離中共に、熱、火花、高温体のような発火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に塗装後の放置過程では蒸発面積が広くなるため、引火性の高い蒸気が発生する恐れがあります。注意してください。 ● 火災時には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。 ● 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあり危険です。絶対に行わないでください。 ● 子供の手の届かない所に保管してください。 ● 素地及び塗装器具を洗浄した汚水はそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。
--	--

下地調整塗材(C-1相当)用環境配慮型剥離剤

責任施工

ムキベスト I

ポリマーセメント系下地調整塗材C-1に有効な剥離剤

今までの剥離剤は有機系塗膜にしか効果を発揮できませんでしたが、ムキベスト I はセメント系下地調整塗材にも効果を発揮します。石綿(アスベスト)含有セメント系下地調整塗材を除去する為の、飛散防止措置に最適な剥離剤です。



下地調整塗材 (C-1相当) 用環境配慮型剥離剤

ムキベスト I

大気汚染防止法の一部を改正する法律が2021年(令和3年)4月1日から施行され、建築物等の解体等工事における石綿の飛散を防止するため、全ての石綿含有建材への規制対象の拡大、事前調査結果報告の義務付け、罰則の強化などによる対策が一層強まっています。

今まではセメント系下地調整材を除去する際には、剥離剤では効果がなく、動力を伴う機材器具を併用する工法に選択していましたが、ムキベスト I により、剥離剤による安全な除去が可能となりました。

特長

適用性

下地調整塗材 C-1 に対応

ムキベスト I は、下地調整材 C-1 下地が剥離可能なため、剥離剤併用手工具除去工法における対応の幅が広がります。
(下地調整材 C-2 には対応していません)

安全性

非塩素系

強臭で毒性の高いジクロロメタン(塩化メチレン)を含まない**非塩素系**剥離剤です。ジクロロメタンを含む剥離剤に比べて低臭で、皮膚への刺激が極めて低い塗膜剥離剤です。

高い環境性能

生分解性の材料を使用しているため、剥離剤は細菌や菌類によって分解されて、自然に還ることができる製品です。

有機則非該当

有機溶剤中毒予防規則(有機則)の対象となる有機溶剤は含まれておりません。

NMP 非含有

リスクアセスメントの実施義務対象物質である NMPI は含まれておりません。

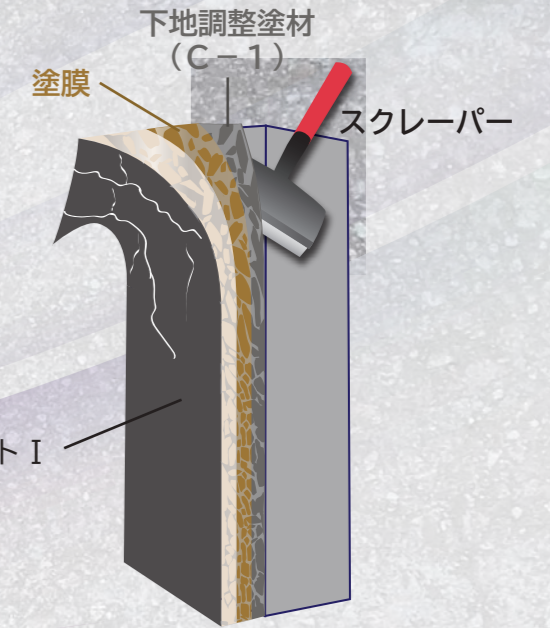
作業性

高塗着性

レオロジーコントロールにより、ダレにくく、広げやすいために、作業性が良好です。厚く塗着することで湿潤状態を維持しやすく、アスベスト含有仕上塗材の除去使用に最適です。

剥離性

従来の剥離剤と違い、既存塗膜を溶解させるのではなく軟化膨潤させることによって簡便かつ容易に剥離できます。



● 各種規制適合

有機溶剤中毒予防規則	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
PRTR法	非該当

種類	呼び名	塗厚 (mm)	適合
セメント系下地調整塗材	下地調整塗材 C-1	0.5 ~ 1	○
	下地調整塗材 C-2	1 ~ 3	×
合成樹脂エマルジョン系下地調整塗材	下地調整塗材 E	0.5 ~ 1	○
セメント系下地調整厚塗材	下地調整塗材 CM-1、CM-2	3 ~ 10	×

施工手順

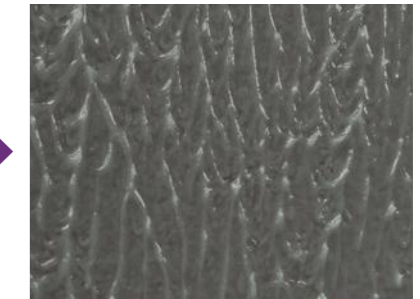
I 下地調整塗材 C-1 + 仕上塗材



塗付前

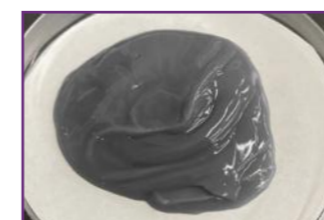


塗付

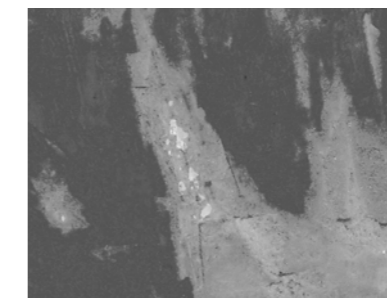


放置

一度で除去できない場合は、塗布・剥離作業を繰り返して、除去作業を行ってください。



着色タイプ(ブラック)なので塗着の状態が一目で判ります。



剥離後



剥離